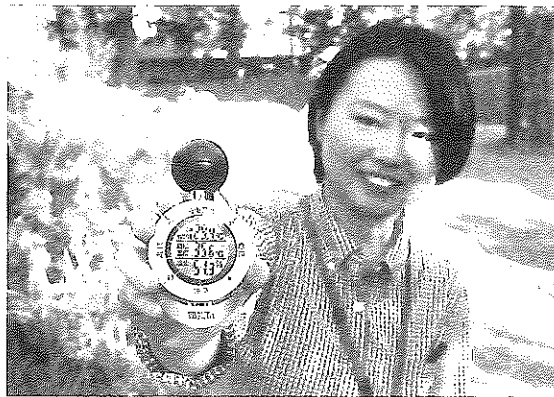


企業も熱中症対策

指数計、ファン付き作業服、塩あめ…

気温35度以上の猛暑日が続く中、県内企業が従業員の熱中症対策に力を入れている。熱中症になる危険性を知らせる計測器を導入したり、送風機能が付いた作業服を支給したりと、働きやすい労働環境を整備。健康状態を管理しながら生産性を維持しようと工夫を凝らしている。



山梅が導入した「熱中症指数計」

告情報を目3回、作業員約150人のスマートフォンに送信して注意を促す。「互いに声を掛け合って労災事故防止に努めたい」と説明する。

建設生産のヤマト(前橋市)は今夏初めて、送風機能があるファン付き作業服を150着用意し、屋外作業者に配布した。加えて、「冷房が効く室内よりも温度差が少ない日陰の方がいい」という声を聞き、屋外に日陰のある休憩場所を設ける現場もある。

生産性維持へ工夫

屋外作業が多い建設関連企業は、労働災害の防止に積極的に取り

た。気温や湿度、放射熱などから暑さ指数(WBGT)が算出され、熱中症の危険性を示してくれる。この警

告情報を目3回、作業員約150人のスマートフォンに送信して注意を促す。「互いに声を掛け合って労災事故防止に努めたい」と説明する。

県内大卒就職83%

全国78% 求人高倍率が継続

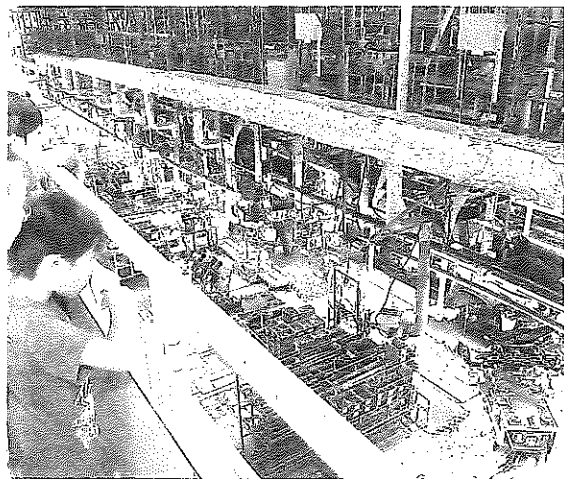
今春に県内の大学を卒業した6246人のうち、正規・非正規を合わせた就職者は5184人で、卒業生に占める割合は前年度比2.0%増の83.0%だった。1.7%増の4.5%。就職者以外の状況では、大学院や海外の学校などへの進学が22人減の546人(割合は8.7%)、一時的な仕事や48人減の25人(同0.4%)、進学も就職もしていないのは44人減の305人(同5.9%)だった。

ダイハツ11販売整備と接客競う

伊勢崎

自動車整備士の技術と接客能力を競う「ダイハツサービステクニク」が、伊勢崎市の群馬自動車大学校で開かれ、茨城ダイハツ販売の鴨志田祐貴さん(日立北店)と小島卓さん

参加者を見学する生産ラインの自動車



全国は、卒業した57万2640人のうち、44万6887人が就職した。非正規は1165人減の1万5895人。同省は「有効求人倍率が高い状況が続いていることに伴い、就職率も高まった」とみている。

造り車学ぶで子

スバル 太田工場など見学

(太田市庄屋町)に移動すると、動画で製造工程を学んだ後、歩きながら見学。鉄板を車体に加工する技術や、産業用ロボットが溶接する様子などに見入った。榛東南小4年の一倉理紗さんは「(下請け会社を営む)父が手掛けた部品を使っているのが分かった」と話した。同教室は自動車販売の富

自動車製造工程や走行能力を学ぶ「第40回親と子の夏休みスバル工場見学教室」が8日、本県と栃木県にあるSUBARU(スバル)の各事業所で開かれた。小学生と保護者の計200人が生産ラインやテストコースを見て回り、安全性能などについて理解を深めた。研究実験センター(栃木県佐野市)では、バスに乗ってテストコース(4.8